

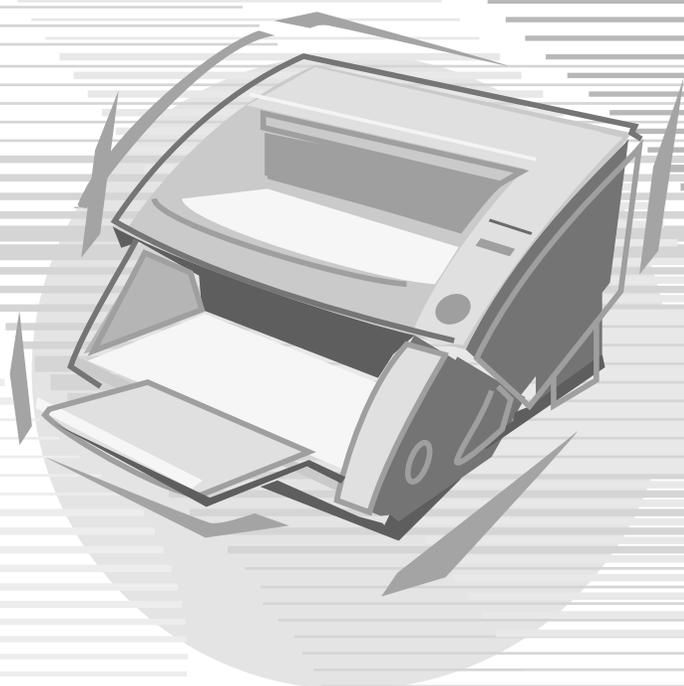
# Canon

ドキュメントスキャナ

# DR-5020/5080C

## ISIS/TWAIN Driver

## 使用説明書



ご使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。  
お読みになった後も、大切に保管してください。

## ■ご注意

- ・ 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
- ・ 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の内容については万全を期して作成しましたが、運用した結果の影響につきましては、前項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

## ■複製についてのご注意

- ・ 紙幣、貨幣、政府発行の有価証券およびパスポート、または公共団体や民間団体発行の免許証、許可書、公文書、私文書などの複製は違法となり、処罰の対象となります。
- ・ 書籍、絵画、版画、地図、図面などの著作物の複製は、自己の使用以外の目的でお使いになることは禁じられていますのでご注意ください。

## ■商標および登録商標について

- ・ Microsoft Windows®、Windows NT® は、米国マイクロソフト社の米国および他の国における登録商標です。
- ・ ISIS は、Pixel Translation A Division of Captiva Software Corporation の登録商標です。
- ・ Adaptec は、ADAPTEC Inc. の登録商標です。
- ・ IBM および PC/AT は、International Business Machines Corporation の登録商標です。
- ・ Pentium® は、米国 Intel 社の登録商標です。
- ・ その他、本書中の商品名や製品名は、各社の登録商標または商標です。

## ■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。

この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

## ■補修用性能部品について

本機の補修用性能部品の最低保有期間は製造中止後 7 年間です。

# はじめに

このたびはキャノンドキュメントスキャナ DR-5020/5080Cをお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。

本書では、DR-5020/5080CをWindowsアプリケーション上で使用するためのISIS/TWAINドライバの操作方法について説明しています。本ドライバの機能を十分に理解し、より効果的にご使用いただくために、本書および別冊の「DR-5020/5080C 取扱説明書」を併せてお読みください。

# 本書内の表記

ここでは、本書で使用している記号・表示について説明します。  
本書をお読みになる前にひととおり目を通して、その意味を理解しておいてください。



取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う恐れのある警告事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの警告事項をお守りください。



取り扱いを誤った場合に、重傷を負う恐れや物的損害が発生する恐れのある注意事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの注意事項をお守りください。



参考になる情報の参照先を記載しています。(P.XX)のかっこ内の数字は参照先のページ数を示しています。



操作の参考になることや補足説明です。

## ■本機

DR-5020 および DR-5080C を総称して「スキャナ」と表記します。機種ごとの説明が必要なときには、DR-5020 および DR-5080C の機種名を記載します。

# 目次

はじめに .....	1
本書内の表記 .....	2
<b>第 1 章 はじめにお読みください</b> .....	<b>5</b>
1.1 必要なシステム環境 .....	6
ISIS/TWAIN ドライバを使うにあたって .....	6
1.2 本書の読みかた .....	8
ISIS 対応アプリケーションの場合 .....	8
TWAIN 対応アプリケーションの場合 .....	8
<b>第 2 章 ISIS/TWAIN ドライバのインストール</b> .....	<b>9</b>
2.1 必要な準備 .....	10
2.2 ドライバのインストール .....	11
<b>第 3 章 ISIS ドライバの使いかた</b> .....	<b>15</b>
3.1 ISIS ドライバの選択 .....	16
3.2 スキャン条件の設定 .....	17
基本設定 .....	18
スキャン領域の設定 .....	21
詳細設定 .....	23
ファンクションキーの設定 .....	26
インプリンタ/アドオンの設定 .....	28
ガンマカーブ設定 .....	32
バーコード読み取り設定 .....	34
<b>第 4 章 TWAIN ドライバの使いかた</b> .....	<b>37</b>
4.1 TWAIN ドライバの選択 .....	38
4.2 TWAIN ドライバの起動 .....	39
4.3 スキャン条件の設定 .....	40
基本設定 .....	41
詳細設定 .....	46
索引 .....	50



# 第 1 章

---

## はじめにお読みください

ここでは、DR-5020/5080C ISIS/TWAIN ドライバをコンピュータにインストールする前に知っておいていただきたいことを説明します。

1.1 必要なシステム環境 .....	6
ISIS/TWAIN ドライバを使うにあたって ....	6
1.2 本書の読みかた .....	8
ISIS 対応アプリケーションの場合 .....	8
TWAIN 対応アプリケーションの場合 .....	8

# 1.1

## 必要なシステム環境

DR-5020/5080C ISIS/TWAIN ドライバを使うためには、以下のハードウェア、アプリケーションが必要です。

- Pentium 133MHz 以上の CPU および 64MB 以上のメモリを搭載した IBM PC/AT または互換コンピュータ
  - ・ OS : Microsoft Windows® 95/98/Me または Windows NT® 4.0 Workstation / Windows 2000 Professional / Windows XP
  - ・ ハードディスクの空き容量 : 100MB 以上 (インストール時 5MB 以上)
- SVGA 対応のディスプレイ
- OS に対応したキーボード、マウス、プリンタ、CD-ROM ドライブ (4 倍速以上)
- 動作確認済み SCSI カード  
動作が確認されている SCSI カードは次のとおりです。  
アダプテック社 AHA-1540 シリーズおよび AHA-2940 シリーズ
- SCSI-2 対応 SCSI ケーブル

### ISIS/TWAIN ドライバを使うにあたって

- この ISIS/TWAIN ドライバは一度のインストールで ISIS ドライバおよび TWAIN ドライバの両方を必ずインストールします。ISIS ドライバのみ、または TWAIN ドライバのみのインストールはできません。
- この ISIS/TWAIN ドライバはスキャナの制御に [wnaspi32.dll] を使用します。[wnaspi32.dll] が正しくインストールされていないとスキャナが動作しませんのでご注意ください。[wnaspi32.dll] がインストールされていない場合はお使いの SCSI カードメーカーにお問い合わせいただくか担当サービスにご相談ください。
- OS が Windows95 のコンピュータの場合、Windows95 に初期インストールされている [wnaspi32.dll] を使用すると、ISIS/TWAIN ドライバが正常に動作しない場合があります。その場合は、Setup CD の [Pixtran] フォルダにある [Aspiinst.exe] を実行して、[wnaspi32.dll] をバージョンアップしてください。  
弊社では、OS が Windows95 のコンピュータで、システムフォルダ内にある [wnaspi32.dll] のバージョンが 1,0,0,0 の場合に、スキャナの選択操作で強制終了する不具合を確認しています。
- この ISIS/TWAIN ドライバは、すべての ISIS 互換アプリケーションおよび TWAIN 互換アプリケーションに対応しているとは限りません。

- 本書で説明している ISIS/TWAIN 互換アプリケーションのダイアログボックスやメニューは、アプリケーションの一例として掲載したものです。ご使用のアプリケーションによって表示が異なりますのでご了解ください。また、アプリケーションによっては、本書に記載されている機能がサポートされない場合があります。詳しくはアプリケーションの供給元にお問い合わせください。
- DR-5020/5080C の機能については、アプリケーションが対応していないために正常に動作しないことがありますのでご注意ください。
- この ISIS/TWAIN ドライバは、マルチ言語（日英独仏西伊 6ヶ国）に対応しており、ドライバの言語は、Windows の「地域」の設定に合わせて自動的に選択されます。  
ドライバの言語とお使いのアプリケーションの言語が異なる場合、ドライバのダイアログが正常に表示されない場合があります。このときはドライバの言語をアプリケーションに合わせてください。  
ドライバの言語を変更する場合には、コントロールパネルの「地域」の設定を変更することによりドライバの言語も変更になります。  
また、「地域」の設定を変更せずに、ドライバの言語を変更することもできます。  
この場合は、Windows フォルダにある” Setscan.ini” ファイルに次の 2 行を書き加えることによりドライバの言語が設定されます。

[Options]

iLanguage=xxxx（xxxx で言語を指定します）

xxxx の定義

1031 = ドイツ語

1033 = 英語

1034 = スペイン語

1036 = フランス語

1040 = イタリア語

1041 = 日本語

なお、コントロールパネルの「地域」の設定および、Setscan.ini ファイルで言語の変更を行っても指定の言語に切り替わらない場合、お使いのアプリケーションが言語の切り替えを制限していることが考えられます。この場合は言語の切り替えはできません。

# 1.2

## 本書の読みかた

ご使用のアプリケーションがISIS、TWAINどちらのドライバに対応しているかをはじめにご確認のうえ、対応する章をお読みください。

### ISIS 対応アプリケーションの場合

#### 第2章 ISIS/TWAIN ドライバのインストール (P.9)



コンピュータにISIS/TWAINドライバをインストールする手順を説明しています。

#### 第3章 ISIS ドライバの使いかた (P.15)

アプリケーションからISISドライバを選択する方法や、詳しい設定内容について説明しています。

### TWAIN 対応アプリケーションの場合

#### 第2章 ISIS/TWAIN ドライバのインストール (P.9)



コンピュータにISIS/TWAINドライバをインストールする手順を説明しています。

#### 第4章 TWAIN ドライバの使いかた (P.37)

アプリケーションからTWAINドライバを選択する方法や、詳しい設定内容について説明しています。



メモ

スキャナの接続方法などについては、別冊の「DR-5020/5080C取扱説明書」を参照してください。

# 第 2 章

---

## ISIS/TWAIN ドライバのインストール

ここでは、DR-5020/5080C ISIS/TWAIN ドライバをコンピュータにインストールする手順を説明します。

2.1 必要な準備.....	10
2.2 ドライバのインストール .....	11

# 2.1 必要な準備

ドライバのインストール作業を始める前に、以下の点を確認してください。

- インストールするコンピュータのOSがMicrosoft Windows® 95/98/MeまたはMicrosoft Windows NT® 4.0 Workstation / Windows 2000 Professional / Windows XPであること



メモ

Windows NT® 4.0 Workstation、Windows 2000 ProfessionalまたはWindows XP  
をご使用の場合は、アドミニストレータでログオンしてください。

- コンピュータとの接続  
スキャナの接続方法については、別冊の「DR-5020/5080C取扱説明書」を参照してください。
- セットアップCD-ROM  
インストールの前に[Readme\_j.txt]を必ずお読みください。  
インストールを終了した後のセットアップCD-ROMは大切に保管してください。

# 2.2 ドライバのインストール

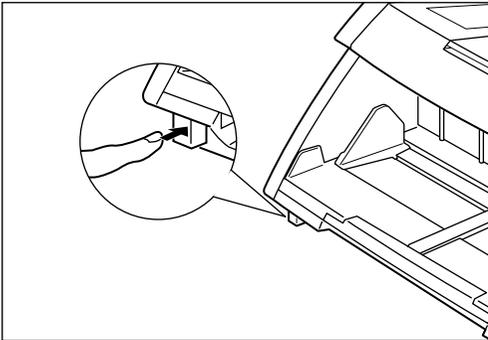
ISIS/TWAIN ドライバをインストールします。



メモ

本インストールでは、ISIS ドライバ・TWAIN ドライバの両方をインストールします。  
ISIS ドライバのみ、または TWAIN ドライバのみのインストールはできません。

## 1 スキャナの電源を ON にします。



## 2 コンピュータの電源を ON にします。

⇒ Windows が起動します。

## 3 すでに ISIS 対応の別のドライバを使用している場合は、以下のファイルのバックアップをとります。

¥windows¥system¥pix\*.dll  
¥windows¥pixtran¥\*.\*



メモ

・ ISIS/TWAIN ドライバをインストールすると、上記のファイルは変更されることがありますので、インストールの前に必ずバックアップをとってください。  
・ Windows の種類によっては ¥windows および ¥windows¥system フォルダの名称が異なります。¥windows および ¥windows¥system フォルダの名称をお使いの Windows のフォルダの名称に置き換えてお読みください。

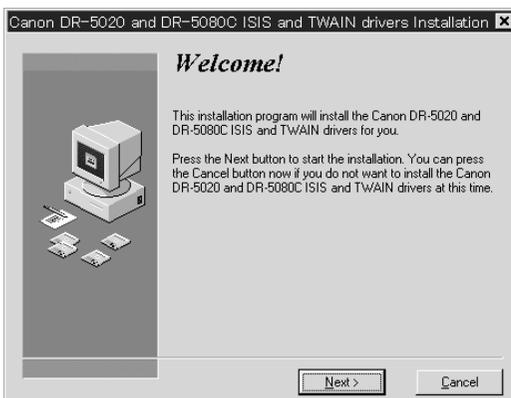
## 4 セットアップ CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れます。

- 5 [スタート]ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行]を選択します。  
お使いのWindowsにより画面が異なります。

[Windows98]



- 6 [名前]の欄に、「D:¥pixtran¥setup.exe」と入力し、[OK]をクリックします。  
ここではCD-ROMドライブをDとして説明します。  
⇒ ドライバのインストール開始画面が表示されます。



## 7 [Next]をクリックし、インストールを行ってください。

⇒ インストール完了画面が表示されます。



## 8 [Finish]をクリックし、インストールを完了させてください。



メモ

・OSにMicrosoft Windows NT 4.0 Workstation、Windows 2000 Professional、Windows XPを使用している場合、セットアップを開始するとASPIマネージャのセットアップの確認ダイアログが表示されます。



他のSCSIデバイスを使用中でASPIマネージャが組み込まれているコンピュータを使用している場合は [NO] を選択し、[NEXT] をクリックしてください。

SCSIデバイスを初めてお使いになる場合は [YES] を選択して [NEXT] をクリックしてください (ASPI マネージャが組み込まれます)。

[YES] を選択すると ISIS/TWAIN ドライバのセットアップが完了後、続けて ASPI マネージャのアップデートを行います。[はい] をクリックして ASPI マネージャのアップデートを行い、コンピュータを再起動してください。





# 第 3 章

---

## ISIS ドライバの使いかた

ここでは、ISIS ドライバを ISIS 対応のアプリケーション上で動作させる場合の操作手順について説明します。

3.1 ISIS ドライバの選択 .....	16
3.2 スキャン条件の設定 .....	17
基本設定 .....	18
スキャン領域の設定 .....	21
詳細設定 .....	23
ファンクションキーの設定 .....	26
インプリンタ / アドオンの設定 .....	28
ガンマカーブ設定 .....	32
バーコード読み取り設定 .....	34

# 3.1 ISIS ドライバの選択

使用する ISIS ドライバを選択します。

この操作は ISIS ドライバをインストール後、1 度だけ行います。DR-5020/5080C 以外のスキャナが接続されていない場合は、繰り返し行う必要はありません。



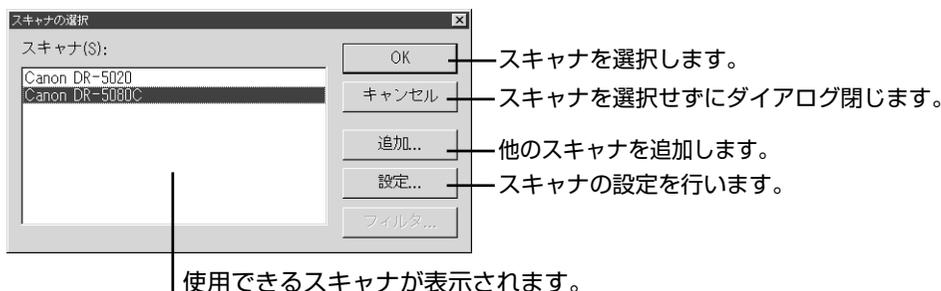
メモ

この章で説明しているダイアログやメニュー表示はアプリケーションの一例として掲載してあります。ご使用のアプリケーションによってダイアログやメニュー表示が異なりますので、詳細についてはご使用のアプリケーションのマニュアルを参照してください。

1 ISIS 対応のアプリケーションを起動します。

2 スキャナの選択画面を表示させます。

選択画面を表示させる操作は、お使いのアプリケーションによって異なります。



メモ

「Canon DR-5020」および「Canon DR-5080C」が画面に表示されていない場合は、ドライバのインストールを行ってください。

3 「Canon DR-5020」または「Canon DR-5080C」を選択し、[設定] をクリックします。

⇒ デバイスの設定画面が表示されます。



4 [ページサイズの初期設定]を設定し、[OK]をクリックします。

⇒ ここで設定したページサイズが初期値に設定されます。

# 3.2 スキャン条件の設定

「スキャナの設定」ダイアログは、以下のような階層になっています。  
機能に応じたダイアログを選択し、設定を行ってください。  
各ダイアログの設定項目の詳細については、参照先のページをご覧ください。

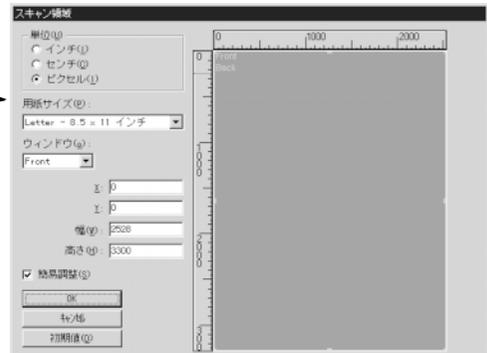
1 ISIS 対応のアプリケーションを起動します。

2 スキャナ設定の画面を表示させます。

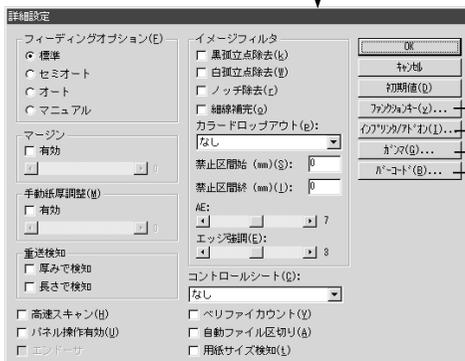
スキャナ設定のメニュー表示は、お使いのアプリケーションによって異なります。



「スキャナの設定」ダイアログ (→ P.18)



「スキャン領域」ダイアログ (→ P.21)



「詳細設定」ダイアログ (→ P.23)

- 「ファンクションキー」ダイアログ (→ P.26)
- 「インプリンタ/アドオン」ダイアログ (→ P.28)
- 「ガンマのダウンロード」ダイアログ (→ P.32)
- 「バーコード」ダイアログ (→ P.34)

## 基本設定

スキャンするための基本設定を行います。  
基本設定は「スキャナの設定」ダイアログで行います。



### 〈読み取りモードの設定〉



実際にスキャンできるモードには制限があり、各設定の組み合わせによってはスキャンできない場合もあります。詳しくは、別冊の「DR-5020/5080C 取扱説明書」の「付録」を参照してください。

項目	内容
イメージ選択	<p>読み取りモードを選択します。DR-5020 のときは[白黒]のみが選択できます。</p> <p><b>[白黒]</b> スキャンした画像は白黒で取り込まれます。</p> <p><b>[16, 256- 階調グレー]</b> 写真など、ハーフトーンのある原稿をグレースケールで読み取るときに選択します。レベルの数値が大きくなるほど、ファイルサイズは大きくなります。</p> <p><b>[3, 12, 24- ビットカラー]</b> 写真などのカラー原稿を読み取るときに選択します。</p> <p><b>[3, 6, 12- ビットカラー --&gt; 16, 256 色パレット]</b> 3ビットカラーのデータを16色のカラーパレットを使い16色に、6, 12ビットカラーのデータは256色のカラーパレットを使い256色に変換して出力します。</p>
ディザ	<p>2値化の方法を選択します。</p> <p><b>[なし]</b> 単純2値を使用します。カラーやハーフトーンの部分がない、テキストや線画などの原稿をスキャンするときに選択します。</p> <p><b>[誤差拡散]</b> ハーフトーンのグレー部分を誤差拡散法で擬似的に再現します。写真などのハーフトーンのある原稿をスキャンするときに選択します。</p>

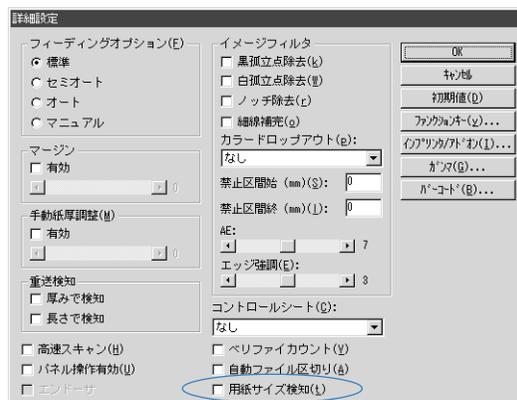
解像度	原稿をスキャンするための解像度 (DPI: Dots Per Inch) を選択します。解像度は、100、200、210、220、230、240、250、260、270、280、290、300、400 から選択できます。
用紙サイズ	読み取る原稿サイズを以下の中から選択します。 Letter - 8.5 × 11 インチ LetterR - 11 × 8.5 インチ Legal - 8.5 × 14 インチ Double Letter - 11 × 17 インチ A3 - 297 × 420mm A4 - 210 × 297mm A4R - 297 × 210mm A5 - 148 × 210mm A5R - 210 × 148mm A6 - 105 × 148mm A6R - 148 × 105mm B4(ISO) - 250 × 353mm B4(JIS) - 257 × 364mm B5(ISO) - 176 × 250mm B5R(ISO) - 250 × 176mm B5(JIS) - 182 × 257mm B5R(JIS) - 257 × 182mm B6(ISO) - 125 × 176mm B6R(ISO) - 176 × 125mm B6(JIS) - 128 × 182mm B6R(JIS) - 182 × 128mm スキャナの最大値 (295 × 432mm のサイズで読み取ります。) 指定したサイズよりも大きい原稿を読みとると、周囲が欠落します。また、小さい原稿を読みとると周囲が黒く表示されます。



メモ

イメージ選択で[16階調グレー]を選択、「詳細設定」ダイアログ (P.23) で[用紙サイズ検知]を選択してスキャンを行い、アプリケーションで保存するときのファイル形式を[JBIG]にすると正常に保存されませんので注意してください。

「詳細設定」ダイアログ (P.23) で[用紙サイズ検知]を選択している場合は、ここでの[用紙サイズ]の設定は無効になります。



#### 〈明るさの設定〉

項目	内容
マニュアル	スキャンする明るさを手動で設定します。設定範囲は、1～255の範囲で設定でき   をクリックして調整します。
オート	[イメージ選択]の設定を[白黒]、[ディザ]の設定を[なし]にしたときのみ、明るさの設定が自動設定になります。 [イメージ選択]の設定がその他の設定のときに、明るさを[オート]に設定した場合、明るさの設定はデフォルトの設定になります。
[暗く]ボタン	全体的に暗めの設定にします。設定値は 64 です。
[標準]ボタン	標準的な明るさに設定します。設定値は 128 です。
[明るく]ボタン	全体的に明るく設定します。設定値は 192 です。

#### 〈コントラストの設定〉

項目	内容
マニュアル	コントラストを手動で設定します。設定範囲は 1～13の範囲で設定でき   をクリックして調整します。 数値を大きくするとコントラストは強くなり、数値を小さくするとコントラストが弱くなります。
オート	コントラストをデフォルトの設定にします。



- ・コントラストの設定は、[イメージ選択] の設定が [白黒] の場合、無効です。
- ・DR-5020 では [イメージ選択] の設定が [白黒] の場合、[コントラスト] チェックボックスがグレーになります。

#### 〈設定適用領域の選択の設定〉

項目	内容
領域	明るさを設定する面を選択します。 Front (両面) または Back (うら面) を選択します。
(追加領域)	本スキャナではサポートされません。

#### 〈ボタン〉

項目	内容
OK	設定した内容を反映してダイアログを閉じます。
初期値	設定を出荷時の状態に戻します
キャンセル	設定した内容を反映せずにダイアログを閉じます。
領域	「スキャン領域」ダイアログ (P.21) を開きます。おもて面、裏面それぞれのスキャン領域や読み取りサイズの選択ができます。
詳細	「詳細設定」ダイアログ (P.23) を開き、詳細な設定を行います。フィルタの設定やスキャン速度、用紙サイズ検知、コントロールシートの検知などができます。
(フィルタ)	本スキャナではサポートされません。

## スキャン領域の設定

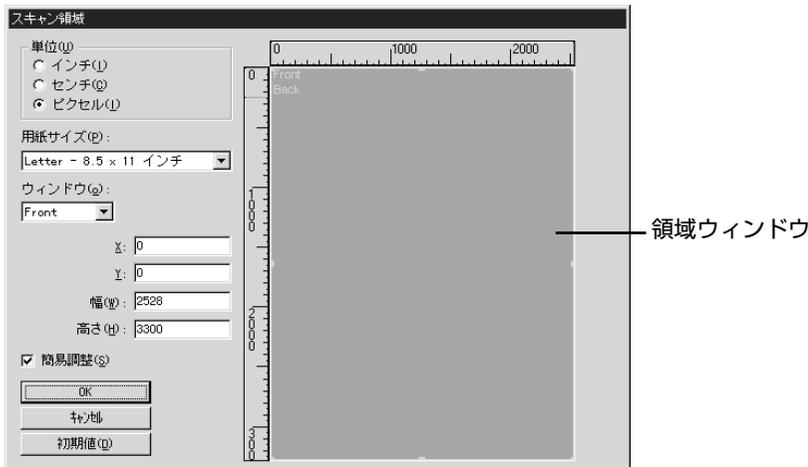
スキャン領域の設定は、原稿の中の特定の領域だけを指定してスキャンしたい場合に設定します。領域の設定は「スキャン領域」ダイアログで行います。

スキャンする原稿のおもて面、うら面のスキャン領域を指定できます。ただし、おもて面とうら面の領域のサイズおよびY方向（縦方向）の座標の位置は必ず同じ設定になり、X方向（横方向）の座標の位置のみそれぞれ指定できます。

スキャン領域の指定は、座標などの数値を入力する方法と、領域ウィンドウ内で直接領域を指定する方法があります。



「詳細設定」ダイアログ (P.23) で[用紙サイズ検知]を選択している場合は、ここでのスキャン領域の設定は無効になります。



3

ISDドライブの使いかた

項目	内容
単位	スキャン領域の表示で使用する単位を選択します。インチ、センチ、ピクセルから選択できます。
用紙サイズ	スキャンする原稿のサイズを選択します。選択できる原稿のサイズは[スキャナの設定]の[用紙サイズ]と同じ原稿サイズが選択でき、[スキャン領域]ダイアログを開いたときは[スキャナの設定]の[用紙サイズ]で設定した原稿のサイズが表示されます。また、ここでの設定の変更は、[スキャナの設定]の[用紙サイズ]に反映されます。
ウィンドウ	スキャン領域を設定する原稿の面を指定します。 Front：原稿の両面を指定します。(両面のスキャン領域の設定が同じになります) Back：原稿の裏面を指定します。(X座標の設定を表面と裏面で変えられます)

座標位置	<p>X : スキャン領域の左上の X 座標を入力します。          Y : スキャン領域の左上の Y 座標を入力します。          幅 : スキャン領域の幅を入力します。          高さ : スキャン領域の高さを入力します。</p> <p>“X” は、表面と裏面で別々に設定できます。          “Y”、“幅”、“高さ” は、表面と裏面の設定が同じになります。</p>
簡易調整	<p>スキャン領域の座標位置を、きりのよい値に自動調整します。          単位が[インチ]の場合は 1/8 インチの倍数、[センチ]の場合は 0.1cm の倍数、[ピクセル]の場合は 32 ピクセルの倍数になります。</p>
領域ウィンドウ	<p>領域ウィンドウには用紙サイズに対するスキャン領域が表示され、用紙サイズの設定により領域ウィンドウのサイズが変わります。          スキャン領域は領域の枠の部分ある■をドラッグすることにより領域の大きさを調整できます。また、領域を移動させるときは、領域全体をドラッグして領域を移動ます。          領域を変更する面の指定は「ウィンドウ」で指定する[Front](両面)、[Back](裏面)で指定します。          [Front]を指定して領域を調整した場合の領域サイズ、座標位置は表面、裏面ともに同じに設定されます。          [Back]を指定して裏面の領域を調整した場合は、X座標のみ個々に調整できます。</p> <div data-bbox="614 904 920 1290" style="text-align: center;"> </div>



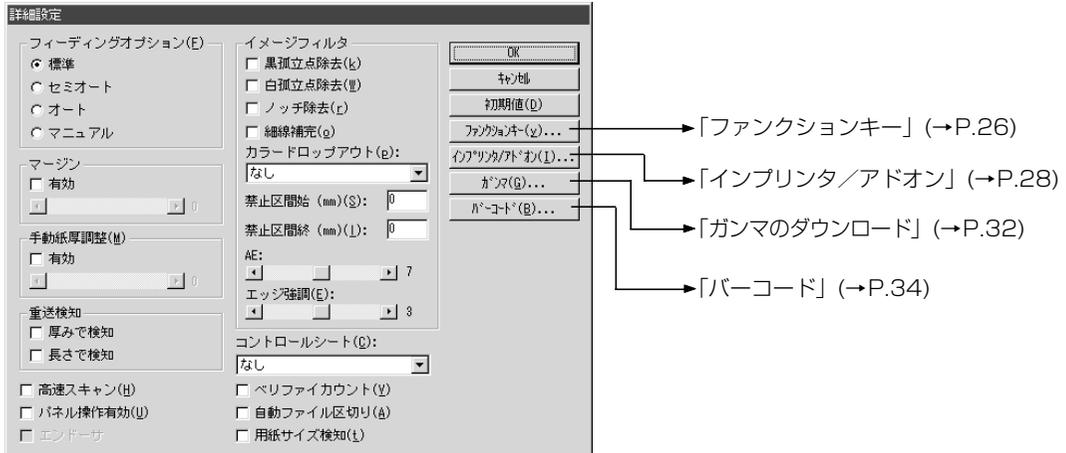
[Back]で裏面の領域を調整した後に[Front]で表面を調整するとそれまでの[Back]の設定は無効になりますので注意してください。

#### <ボタン>

項目	内容
OK	設定した内容を反映してダイアログを閉じます。
キャンセル	設定した内容を反映せずにダイアログを閉じます。
初期値	設定を出荷時の状態に戻します。

## 詳細設定

スキャン条件の詳細を設定します。  
 詳細設定は「詳細設定」ダイアログで行います。



項目	内容
フィーディングオプション	<p>原稿の給紙方法を選択します。</p> <p><b>標準 (Ft)</b> : 原稿をセットしてソフトウェアからスキャン開始の指示をすると、給紙(スキャン)を開始します。</p> <p><b>セミオート</b> : ソフトウェアからスキャン開始の指示をして原稿をセットした後、スキャナ本体の操作パネルのスタートキーを押すと給紙(スキャン)を開始します。</p> <p><b>オート</b> : ソフトウェアからスキャン開始の指示をして原稿をセットすると、自動的に給紙(スキャン)を開始します。</p> <p><b>マニュアル</b> : ソフトウェアからスキャン開始の指示をした後、手差しで1枚ずつ原稿をセットします。特に厚い、または薄い原稿などの場合に使用します。</p> <p>なお、ここで設定を変更すると、[OK]をクリックしたかどうかわからず、スキャナ本体の操作パネルのフィーディングオプションの表示が切り替わります。</p>
マージン読み取り	<p>スキャン領域の上下左右の範囲を調整します。          [有効]をクリックし、◀ ▶で調整します。          - 10 (10mm 狭く読み取る) ~ +10 (10mm 余分に読み取る) の範囲で指定します。</p> <p>たとえば、原稿の端の部分が欠けないようにスキャン領域を広めにとりたい場合は + 方向に調整し、スキャン結果に黒い枠がつかないようにスキャン領域を狭くとりたい場合は - 方向に調整します。</p>

<p>手動紙厚調整</p>	<p>自動紙厚調整を使用しない場合に、紙厚を手動で設定します。有効をクリックし、  で調整します。数値は1 (もっとも薄い紙) ~ 13 (もっとも厚い紙) の範囲で指定します。自動紙厚調整が使えない原稿、表面処理がされている原稿をスキャンする場合や、自動紙厚調整モードで重送が頻繁に起こる場合に、ここで紙厚を調整します。</p>
<p>重送検知</p>	<p>原稿を連続してスキャンするときに原稿が複数枚が重なって送られたり、一部が重複して送られたこと (重送) を検知するための方式を選択します。</p> <p><b>[厚みで検知]</b> 紙の厚さで重送を検知します。1枚目の原稿(*)よりも厚い原稿が送られると、スキャナが重送と判断してエラーを表示します。</p> <p><b>[長さで検知]</b> 紙の長さで重送を検知します。1枚目の原稿(*)よりも長い原稿が送られると、スキャナが重送と判断してエラーを表示します。</p> <p>(*)重送検知は、1枚目の原稿の厚さや長さを基準として行います。1枚目の原稿が送られると、スキャナが厚さと長さを記憶します。</p>
<p>高速スキャン</p>	<p>解像度を200dpiまたは300dpiに設定している場合に選択できます。200dpiの場合は、200×100dpi(横×縦)でスキャンした画像を200×200dpi(横×縦)で出力します。300dpiの場合は、300×150dpi(横×縦)でスキャンした画像を300×300dpi(横×縦)で出力します。どちらの場合も素早くスキャンすることができますが、画質は若干劣化します。</p>
<p>パネル操作有効</p>	<p>スキャナ本体の操作パネルでの設定の変更を有効にします。</p>
<p>エンドーサ</p>	<p>オプションのエンドーサの使用を有効にします。</p>
<p>コントロールシート</p>	<p>スキャナコントロールシートを使う場合の読み取りモードを選択します。</p> <p>[なし] スキャナコントロールシートを検知しません。</p> <p>[検知して記録する / スキャン継続] スキャナコントロールシートの内容も画像として記録し、スキャンを継続します。</p> <p>[検知して記録しない / スキャン継続] スキャナコントロールシートの内容は画像として記録せず、スキャンを継続します。</p> <p>[検知して記録する / スキャン停止] スキャナコントロールシートの内容も画像として記録し、スキャンを停止します。</p> <p>[検知して記録しない / スキャン停止] スキャナコントロールシートの内容は画像として記録せず、スキャンを停止します。</p>
<p>ベリファイカウント</p>	<p>スキャンする前にカウントした枚数と実際にスキャンした枚数とを照合し、違いがあればエラーを表示します。</p>

自動ファイル区切り	連続スキャンが1回終了するごとに、区切り信号を発生する設定です。対応したアプリケーションでファイル区切りなどを行うことができます。
用紙サイズ検知	スキャン時に1枚ずつ原稿サイズを検知し、そのサイズで読み取ります。これを選択すると、「スキヤナの設定」ダイアログの「用紙サイズ」の設定は無効になります。

### 〈イメージフィルタの設定〉

画像処理フィルタの設定を行います。

項目	内容
黒孤立点除去	白地の中で孤立した黒い点(1ドット)を自動的に消去します。
白孤立点除去	黒地の中で孤立した白い点(1ドット)を自動的に消去します。
ノッチ除去	輪郭から飛び出している部分(ノッチ)を自動的に消去します。
細線補完	細線やうすい原稿をスキャンしたときに発生するかすれやとぎれを軽減します。
カラードロップアウト	原稿の中の特定の色を読み取らない(ドロップアウトする)ように設定します。この機能は DR-5080C の場合のみ有効です。 [なし] ドロップアウトを行いません。 [赤] 原稿中の赤色の部分を読み取らないようにします。 [緑] 原稿中の緑色の部分を読み取らないようにします。 [青] 原稿中の青色の部分を読み取らないようにします。
禁止区間始	ドロップアウトを無効にしたい部分がある場合、無効にする範囲の開始位置を指定します。 用紙の先端から mm 単位で指定します。
禁止区間終	ドロップアウトを無効にする範囲の終了位置を指定します。 用紙の先端から mm 単位で指定します。
AE	自動露出機能(画像を選択した範囲の明暗によって明度とコントラストの設定をすること)のレベルを設定します。◀ ▶ をクリックして 1 ~ 13 の範囲で選択します。出荷時の値は 7 です。
エッジ強調	文字の輪郭を強調したり、写真などで画像の粗さを緩和したりするレベルを設定します。◀ ▶ をクリックして 1 ~ 5 の範囲で選択します。出荷時の設定は 3 です。



メモ

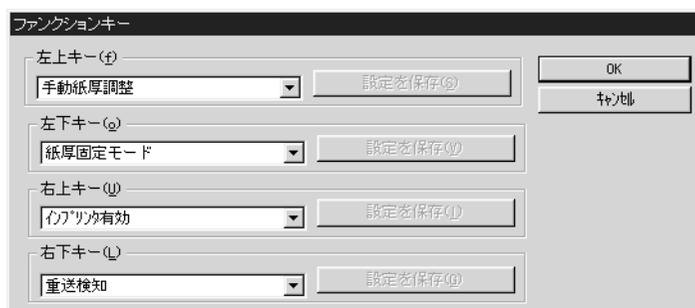
- ・[黒孤立点除去]、[白孤立点除去]、[ノッチ除去]、[細線補完]は、[イメージ選択]の設定が[白黒]で[ディザ]の設定が[誤差拡散]の場合に有効です。
- ・[カラードロップアウト]は、[イメージ選択]の設定がカラー以外の場合に有効です。
- ・[AE]は、[イメージ選択]の設定が[白黒]の場合に有効です。
- ・[エッジ強調]は、全てのモードで有効です。

〈ボタン〉

項目	内容
OK	設定した内容を反映してダイアログを閉じます。
キャンセル	設定した内容を反映せずにダイアログを閉じます。
初期値	設定を出荷時の状態に戻します。
ファンクションキー	「ファンクションキー」ダイアログ (P.26) を開きます。スキャナ本体のファンクションキーに、特定の機能を割り当てる設定を行います。
インプリンタ	「インプリンタ/アドオン」ダイアログ (P.28) を開きます。スキャンした原稿に印字するインプリンタ機能(オプションのインプリンタユニットが装着されている場合)や、スキャン結果の画像に文字を付加するアドオン機能の設定を行います。
ガンマ	「ガンマのダウンロード」ダイアログ (P.32) を開きます。色や階調の表現をするガンマデータを読み込みます。
バーコード	「バーコード」ダイアログ (P.34) を開きます。オプションのバーコードデコーダが装着されている場合に、バーコードの読み取りに関する設定を行います。

## ファンクションキーの設定

スキャナ本体のファンクションキーに特定の機能を記憶させることができます。ファンクションキーの設定は「ファンクションキー」ダイアログで行います。



項目	内容
選択	<p>各キーに登録する機能をプルダウンメニューから選択します。ファンクションキーには次の5つの機能が選択できます。それぞれの機能については、別冊の「DR5020/5080C 取扱説明書」の「ファンクションキーでの設定」(P.55)をご覧ください。</p> <p><b>[手動紙厚調整]</b> 紙厚を手動で調整します。</p> <p><b>[インプリンタ有効]</b> オプションでインプリンタが装着されているとき、インプリンタを使用するかどうかを選択します。</p> <p><b>[紙厚固定モード]</b> 紙厚を固定にします。</p> <p><b>[重送検知]</b> 原稿が複数枚が重なって送られたり、一部が重複して送られたこと(重送)を自動的に検知します。</p> <p><b>[設定を復元する]</b> 設定したスキャナ設定をファンクションキーに登録します。</p>
設定を保存	[設定を復元する]を選択しているときにクリックすると、現在のスキャナ設定をファンクションキーに登録します。



メモ

- ・[設定を復元する]を選択し、[設定を保存]をクリックせずに[OK]をクリックすると以下のメッセージが表示されます。  
[OK]をクリックすると保存を行いダイアログを閉じます。  
[キャンセル]をクリックすると[ファンクションキー]ダイアログに戻りますのでファンクションキーの設定を確認してください。



- ・ファンクションキーに現在のスキャナ設定を登録しても、お使いのアプリケーションによってはファンクションキーでスキャナ設定が正常に復元されないことがありますので注意してください。  
特に、読み取りを開始した後、原稿が無くなった等で読み取りが中断したときにファンクションキーを押してスキャナ設定を変えようとする、読み取りを再開したあとに読み取った画像が正常に保存されないことがあります。読み取りを開始したら読み取りが終了するまではファンクションキーでスキャン設定を復元することは行わないでください。

#### 〈ボタン〉

項目	内容
OK	設定した内容を反映してダイアログを閉じます。
キャンセル	設定した内容を反映せずにダイアログを閉じます。

## インプリンタ／アドオンの設定

原稿に文字を印字するインプリンタ（オプション）やスキャンした画像に文字を付加するアドオンの設定をします。

設定は「インプリンタ／アドオン」ダイアログで行います。

インプリンタ機能を使う場合には、オプションのインプリンタが別途必要です。

アドオンのみの場合にはインプリンタは必要ありません。

### 〈有効の設定〉

項目	内容
インプリンタ	スキャンした原稿に、指定した文字やカウンタを印字します。
アドオン	スキャンした画像に、指定した文字やカウンタを付加します。
文字列	<p>印字／アドオンする内容を入力します。                      入力できる文字は以下のとおりです。(すべて半角です)                      最大 32 文字(*)まで入力できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数字(0～9)</li> <li>・ アルファベット(大文字・小文字)</li> <li>・ スペース(空白)</li> <li>・ 以下の記号</li> </ul> <p>! " # \$ % &amp; ' ( ) * + &lt; - . / : ; &lt; = &gt; ? @ [ ] ^ _ {   } ~ ` , \ (または ¥)                      上記の文字は、入力したものがそのまま印字／アドオンされます。</p> <p>\ (または ¥) の設定は、出荷時 \ に設定されています。¥ を印字／アドオンする場合には担当サービスにお問い合わせください。                      それ以外に、特殊な文字列として、カウンタ・時刻・日付・矢印が指定できます。</p>

### 〈カウンタ〉

カウンタを印字/アドオンする場合は、以下のいずれかの形式で入力します。

<C> :9桁のカウンタを印字/アドオンします。  
 <C#>(＃は数字) :＃桁のカウンタを印字/アドオンします。  
 <CC> :9桁のカウンタ2つを印字/アドオンします。2つのカウンタの間は"."(ピリオド)で区切られます。  
 <C#C#>(＃は数字):カウンタ2つ(＃桁,＃桁)を印字/アドオンします。2つのカウンタの間は"."(ピリオド)で区切られます。

カウンタの開始値や増加量、増加のタイミングなどは、後述の〈カウンタ1, カウンタ2の設定〉で設定します。(カウンタが1つだけの場合は[カウンタ1]で設定します。カウンタが2つの場合、最初のカウンタが[カウンタ2]、後のカウンタが[カウンタ1]になります。)

[入力]	[印字/アドオン結果]
<C>	000000000
<C6>	000000
<CC>	000000000.000000000 (カウンタ2) (カウンタ1)
<C5C4>	00000.0000

### 〈時刻〉

原稿をスキャンした時刻を印字/アドオンする場合は、"<TIME>"と入力します。

下記の例のように、24時間表示の時刻が8桁で印字/アドオンされます。(例は16時28分30秒の場合)

[入力]	[印字/アドオン結果]
<TIME>	16:28:30

### 〈日付〉

原稿をスキャンした日付を印字/アドオンする場合は、Y(年),M(月),D(日)の組み合わせで"<MDY>","<DMY>","<YMD>"のいずれかを入力します。

下記の例のように、西暦表示の年月日が10桁で印字/アドオンされます。年・月・日の間は"/"で区切られます。(例は2001年3月4日の場合)

[入力]	[印字/アドオン結果]
<YMD>	2001/03/04

### 〈矢印〉

矢印を印字/アドオンする場合は、下記のように入力します。

[入力]	[印字/アドオン結果]
<U>	↑
<D>	↓
<L>	←
<R>	→



小さいフォント	文字を小さいフォント（8×7ドット）で印字/アドオンします。 （通常のフォントは12×12ドットです。）
通常のフォント	CANON canon
小さいフォント	CANON canon

## 〈カウンタ1、カウンタ2の設定〉

項目	内容
スタート値	カウンタの開始値を設定します。出荷時の設定は0です。
カウントアップ量	カウンタの増加量を設定します。出荷時の設定は0(変わらない)です。
カウントアップ タイミング	カウンタの数値が増えるタイミングを、以下の中から選択します。 [ニューファイル] スキャナのオートニューファイルかニューファイルボタンにより保存 先のファイルが変わったとき [仕切り紙] ファイル区切りシートが入ったとき [ニューファイル/仕切り紙] スキャナのオートニューファイルかニューファイルボタンにより保存先 のファイルが変わったとき、またはファイル区切りシートが入ったとき [ページ] 原稿が1ページ送られたとき [なし] なし
リセット値	カウンタのリセット後の最初の値を設定します。出荷時の設定は0です。
リセット タイミング	カウンタをリセットするタイミングを、以下の中から選択します。 [ニューファイル] スキャナのオートニューファイルかニューファイルボタンにより保存 先のファイルが変わったとき [仕切り紙] ファイル区切りシートが入ったとき [ニューファイル/仕切り紙] スキャナのオートニューファイルかニューファイルボタンにより保存先 のファイルが変わったとき、またはファイル区切りシートが入ったとき [ページ] 原稿が1ページ送られたとき [なし] なし

## 〈ボタン〉

項目	内容
OK	設定した内容を反映してダイアログを閉じます。
キャンセル	設定した内容を反映せずにダイアログを閉じます。
初期値	設定を出荷時の状態に戻します。
ヘルプ	文字列の定義を説明します。

## ガンマカーブ設定

ガンマカーブの設定を行います。



ガンマカーブ設定とは、256階調の明るさの入力値（読み取り）に対する出力値（コンピュータへの出力）を、ユーザーが任意に作成したガンマカーブデータを使用して調整します。ガンマカーブは、グレー（白黒用）、赤、緑、青を別々に設定します。なお、ここで設定したガンマカーブの設定は、「ガンマのダウンロード」ダイアログの中の[ダウンロードガンマを使用]をチェックしなければ有効になりません。

1 ガンマカーブに合わせたガンマカーブデータを作成します。(P.33「ガンマカーブデータの作成」)

2 カーブ選択からガンマカーブを設定する色を選択します。



3 ダウンロードボタンを押して作成したガンマカーブデータを選択します。



4 [開く]をクリックするとガンマカーブを設定し[詳細設定]ダイアログに戻ります。

5 他の色のガンマカーブを設定する場合は 1 ～ 4 の手順を繰り返します。

### ◆ガンマカーブデータの作成

ガンマカーブデータは 256 階調の入力値に対する出力値が書かれている 258 行のテキストファイル (\*.pxg) です。

ガンマカーブデータは、最初の 1 行目にコメント、2 行目にデータ数を表す[256]を必ず記入します。

3 行目から入力値に対する出力値になり、3 行目から入力値の[0],[1],[2]に対する出力値と続き、258 行目で入力値の[255]の出力値を設定します。

ガンマカーブデータの数値を小さくすると画像は暗くなり、数値を大きくすると明るくなります。

### ◆ガンマカーブデータの作成例

通常は、右上がりのガンマカーブですが、下段のガンマカーブデータでは出力値をすべて反転させているため画像が反転されて出力されます。

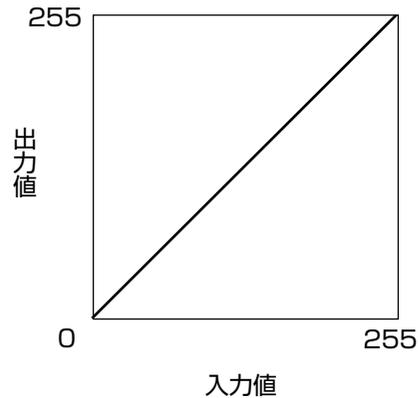
#### ガンマカーブデータ

```

1 行目 : gamma curve
2 行目 : 256
3 行目 : 0
4 行目 : 1
5 行目 : 2
...
253 行目 : 250
254 行目 : 251
255 行目 : 252
256 行目 : 253
257 行目 : 254
258 行目 : 255

```

(ガンマカーブ)



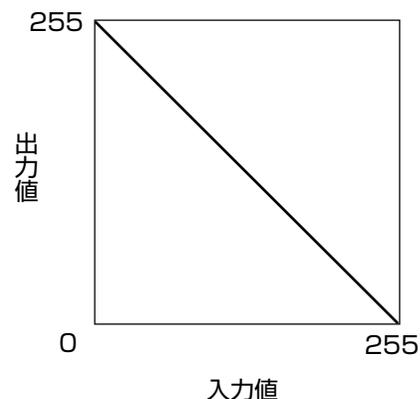
#### ガンマカーブデータ (反転用)

```

1 行目 : Inverted linear gamma curve
2 行目 : 256
3 行目 : 255
4 行目 : 254
5 行目 : 253
...
253 行目 : 5
254 行目 : 4
255 行目 : 3
256 行目 : 2
257 行目 : 1
258 行目 : 0

```

(ガンマカーブ)



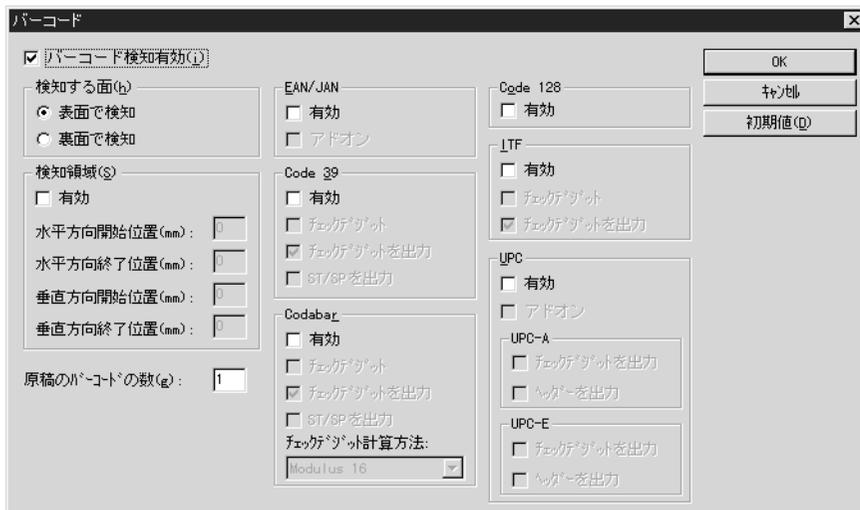
メモ

ガンマカーブデータの情報は、スキャナ内部で保持され、スキャナの電源を切っても、他のガンマカーブデータを読み込むまではガンマカーブの情報は変更されません。

## バーコード読み取り設定

バーコードを読み取るための設定を行います。この設定は、オプションのバーコードデコーダを取り付けているときのみ有効です。また、アプリケーションがバーコードデコーダに対応している必要があります。

バーコードの設定は、「バーコード」ダイアログで行います。



メモ

- ・複数のバーコードが水平に並んでいる場合、認識エラーを起こすことがあります。バーコードの領域設定で1つのバーコードを指定してください。
- ・アドオンコードの付いているバーコードと付いていないバーコードを同時に検知することはできません。スキャンする原稿に、アドオンコードの付いているバーコードと付いていないバーコードが混在している場合は、必ずバーコードの領域設定で、検知する領域を設定してからスキャンしてください。
- ・スキャンの設定が400dpi、両面の場合は、A4の幅以内にあるバーコードしか検知できません。
- ・複数のバーコードが混在する原稿をスキャンする場合に、特定のバーコードだけを検知させたいときは、バーコードの領域設定で検知する領域を設定してください。スキャン領域の設定で領域設定をした場合は、スキャン領域の外にあるバーコードも検知されます。
- ・バーコードの種類が不明の場合は、全てのバーコードをチェック（自動検知）し、チェックデジットを読み取らないように設定してスキャンします。

## 〈読み取りの設定〉

項目	内容
バーコード検知有効	バーコードの読み取りを行うときにチェックします。 ここをチェックすると各種の設定ができるようになります。
検知する面	バーコードを読み取る原稿面を選択します。 [表面で検知] 原稿の表面のバーコードを読み取ります。 [裏面で検知] 原稿の裏面のバーコードを読み取ります。
検知領域	原稿の一部の範囲だけを読み取る場合に、[有効]にチェックをつけ、範囲を設定します。[有効]のチェックを外すと、原稿の全面を読み取ります。読み取り範囲は（水平、垂直）の座標で指定します。水平の基準は、表面の場合は給紙方向に対して給紙口の左端、裏面の場合は給紙口の右端を基準とします。垂直の基準は用紙の先端からの長さを入力してください。  [水平方向開始位置] 水平方向で読み取りを始める位置を入力します。 [水平方向終了位置] 水平方向で読み取りを終了する位置を入力します。 [垂直方向開始位置] 垂直方向で読み取りを始める位置を入力します。 [垂直方向終了位置] 垂直方向で読み取りを終了する位置を入力します。
原稿のバーコードの数	1ページ中で読み取るバーコード数を指定します。1～4の範囲で指定できます。

## 〈EAN/JANの設定〉

項目	内容
有効	EAN/JAN コードを読み取る場合にチェックします。
アドオン	アドオンコードを読み取ります。

## 〈Code39の設定〉

項目	内容
有効	Code39 コードを読み取る場合にチェックします。
チェックデジット	チェックデジットを読み取ります。
チェックデジットを出力	[チェックデジット]をチェックしたときにチェックデジットを出力するかを選択できます。 チェックデジットを出力するときはチェックします。
ST/SPを出力	スタート/ストップコードを出力します。

#### 〈Codabar の設定〉

項目	内容
有効	Codabar コードを読み取る場合にチェックします。
チェックデジット	チェックデジットを読み取ります。
チェックデジットを出力	[チェックデジット]をチェックしたときにチェックデジットを出力するかしないかを選択できます。 チェックデジットを出力するときはチェックします。
ST/SP を出力	スタート/ストップコードを出力します。
チェックデジット 計算方法	チェックデジットの計算方法を指定します。 Modulas16 または 7DR を指定します。

#### 〈Code128 の設定〉

項目	内容
有効	Code128 コードを読み取る場合にチェックします。

#### 〈ITF の設定〉

項目	内容
有効	ITFコード (インダストリアル2of5 含む) を読み取る場合にチェックします。
チェックデジット	チェックデジットを読み取ります。
チェックデジットを出力	[チェックデジット]をチェックしたときにチェックデジットを出力するかしないかを選択できます。 チェックデジットを出力するときはチェックします。

#### 〈UPC の設定〉

項目	内容
有効	UPC コードを読み取る場合にチェックします。
アドオン	アドオンコードを検知します。
UPC-A	チェックデジット : チェックデジットを読み取ります。 ヘッダーを出力 : ヘッダーコードを出力します。
UPC-E	チェックデジット : チェックデジットを読み取ります。 ヘッダーを出力 : ヘッダーコードを出力します。

#### 〈ボタン〉

項目	内容
OK	設定した内容を反映してダイアログを閉じます。
キャンセル	設定した内容を反映せずにダイアログを閉じます。
初期値	設定を出荷時の状態に戻します。

# 第 4 章

---

## TWAIN ドライバの使いかた

ここでは、TWAIN ドライバを TWAIN 対応のアプリケーション上で動作させる場合の操作手順について説明します。

4.1 TWAIN ドライバの選択 .....	38
4.2 TWAIN ドライバの起動 .....	39
4.3 スキャン条件の設定 .....	40
基本設定 .....	41
詳細設定 .....	46

# 4.1 TWAIN ドライバの選択

使用する TWAIN ドライバスキャナを選択します。  
この操作は TWAIN ドライバをインストール後、1 度だけ行います。DR-5020/5080C 以外の  
スキャナが接続されていない場合は、繰り返し行う必要はありません。



メモ

この章で説明しているダイアログやメニュー表示はアプリケーションの一例として掲載してあります。ご使用のアプリケーションによってダイアログやメニュー表示が異なりますので、詳細についてはご使用のアプリケーションのマニュアルを参照してください。

1 TWAIN 対応のアプリケーションを起動します。

2 スキャナ選択の画面を表示させます。

選択画面を表示させる操作は、お使いのアプリケーションによって異なります。



OK → スキャナを選択します。

キャンセル → スキャナを選択せずにダイアログを閉じます。

使用できるスキャナが表示されます。

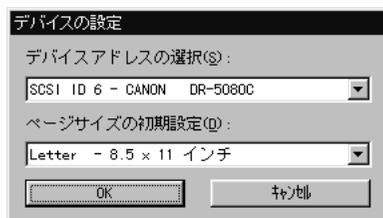


メモ

「Canon DR-5020 and Canon DR-5080C」が画面に表示されていない場合は、ドライバのインストールを行ってください。

3 「Canon DR-5020」または「Canon DR-5080C」を選択し、[設定] をクリックします。

⇒ TWAIN ドライバをインストール後、始めて TWAIN ドライバを起動させたときのみデバイスの設定画面が表示されます。



4 [ページサイズの初期設定]を設定し、[OK]をクリックします。

⇒ ここで設定したページサイズが初期値に設定されます。

# 4.2 TWAIN ドライバの起動

TWAIN 対応アプリケーションから TWAIN ドライバを起動します。

1 TWAIN 対応のアプリケーションを起動します。

2 [TWAIN 機器からの入力]などのスキャン開始メニューから TWAIN ドライバを起動します。

スキャン開始メニューは、お使いのアプリケーションによって異なります。詳しくはアプリケーションのマニュアルを参照してください。

⇒「Canon DR-5020/DR-5080C Scanner」ダイアログが開きます。



# 4.3 スキャン条件の設定

「Canon DR-5020/DR-5080C Scanner」ダイアログは、以下のような階層になっています。機能に応じたダイアログを選択し、設定を行ってください。各ダイアログの設定項目の詳細については、参照先のページをご覧ください。

## 「Canon DR-5020/DR-5080C Scanner」ダイアログ

The screenshot shows the main dialog box for the Canon DR-5020/DR-5080C Scanner. It is divided into several sections:

- スキャンモード (Scan Mode):** Includes options for image selection (モノクロ), resolution (300), and scan mode (標準).
- スキャン領域設定 (Scan Area Setting):** Includes paper size (Letter - 8.5 x 11 インチ), X and Y coordinates, width (2528), and height (3300).
- 明るさ (Brightness):** Includes manual and auto options with a slider.
- コントラスト (Contrast):** Includes manual and auto options with a slider.
- 簡易調整 (Easy Adjustment):** Includes unit selection (インチ, センチ, ピクセル).

At the bottom, there are several buttons with callout lines pointing to other dialog boxes:

- 詳細 (Details) → 「Canon DR-5020/DR-5080C 詳細設定」ダイアログ (→ P.46)
- インプリンタ/アドオン (Printer/Addon) → 「インプリンタ/アドオン」ダイアログ (→ P.28)
- ガンマ (Gamma) → 「ガンマのダウンロード」ダイアログ (→ P.32)
- 機能キー (Function Key) → 「ファンクションキー」ダイアログ (→ P.26)
- 初期値 (Reset) → 「初期値」ダイアログ (→ P.26)
- バーコード (Barcode) → 「バーコード」ダイアログ (→ P.34)



「ファンクションキー」、「ガンマのダウンロード」、「バーコード」、「インプリンタ/アドオン」については第3章「ISIS ドライバの使い方」を参照してください。

## 基本設定

スキャンするための基本的な条件を設定します。

基本設定は「Canon DR-5020/DR-5080C Scanner」ダイアログで行います。



### 〈読み取りモードの設定〉



メモ

実際にスキャンできるモードには制限があり、各設定の組み合わせによってはスキャンできない場合もあります。詳しくは、別冊の「DR-5020/5080C 取扱説明書」の「付録」を参照してください。

項目	内容
イメージ選択	<p>読み取りモードを選択します。DR-5020 のときは[白黒]のみが選択できます。</p> <p><b>[白黒]</b> スキャンした画像は白黒で取り込まれます。</p> <p><b>[16/256- 階調グレー]</b> 写真など、ハーフトーンのある原稿をグレースケールで読み取るときに選択します。階調の数値が大きくなるほど、ファイルサイズは大きくなります。</p> <p><b>[24-ビットカラー]</b> 写真などのカラー原稿を読み取るときに選択します。</p> <p><b>[3, 6, 12-ビットカラー --&gt; 16, 256色パレット]</b> 3ビットカラーのデータを16色のカラーパレットを使い16色に、6, 12ビットカラーのデータは256色のカラーパレットを使い256色に変換して出力します。</p>

ディザ	2 値化の方法を選択します。 [なし] 単純 2 値を使用します。カラーやハーフトーンの部分がなく、テキストや線画などの原稿をスキャンするときに選択します。 [誤差拡散] ハーフトーンのグレー部分を誤差拡散法で擬似的に再現します。写真などのハーフトーンのある原稿をスキャンするときに選択します。
解像度	原稿をスキャンするための解像度 (DPI: Dots Per Inch) を選択します。解像度は、100、200、210、220、230、240、250、260、270、280、290、300、400 から選択できます。
スキャンオプション	スキャン方法を選択します。 [標準] 原稿をスキャンし、スキャンした画像データをコンピュータに送り切ってから次の原稿をスキャンします。 [先読みスキャン] 原稿をスキャンし、スキャンした画像データをコンピュータに送り切る前に次の原稿をスキャンします。 [1 枚スキャン] 原稿を 1 枚だけスキャンします。
両面	原稿の両面をスキャンするときにチェックします。

#### 〈明るさの設定〉

項目	内容
マニュアル	スキャンする明るさを手動で設定します。設定範囲は、1～255 の範囲で設定できます。◀ ▶ をクリックして調整してください。
オート	[イメージ選択] の設定を [白黒]、[ディザ] の設定を [なし] に設定したときのみ、明るさの設定が自動設定になります。 [イメージ選択] の設定がその他の設定のときに、明るさを [オート] に設定した場合、明るさの設定はデフォルトの設定になります。
[暗く] ボタン	全体的に暗めの設定にします。設定値は 64 です。
[標準] ボタン	標準的な明るさに設定します。設定値は 128 です。
[明るく] ボタン	全体的に明るく設定します。設定値は 192 です。

#### 〈コントラストの設定〉

項目	内容
マニュアル	コントラストを手動で設定します。設定範囲は 1～13 の範囲で設定でき ◀ ▶ をクリックして調整します。 数値を大きくするとコントラストは強くなり、数値を小さくするとコントラストが弱くなります。
オート	コントラストをデフォルトの設定にします。



メモ

- ・コントラストの設定は、[イメージ選択] の設定が [白黒] の場合、無効です。
- ・DR-5020 では [イメージ選択] の設定が [白黒] の場合、[コントラスト] チェックボックスがグレーになります。

### 〈スキャン領域の設定〉

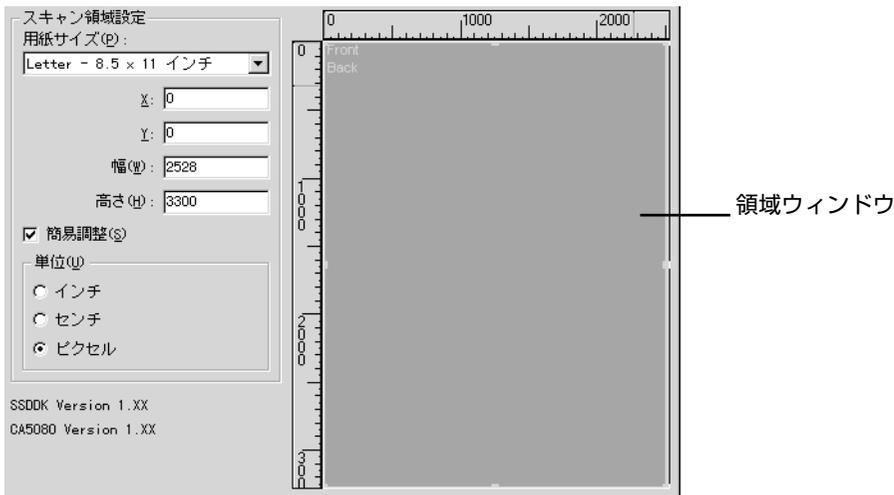
スキャン領域の設定は、[用紙サイズ]で決められた原稿サイズのスキャン以外に、原稿の中の特定の領域だけをスキャンしたい場合に領域を指定することができます。

スキャンする原稿の表面、裏面のスキャン領域を指定できます。ただし、表面と裏面の領域のサイズおよび位置は同じ設定になります。

スキャン領域の指定は、座標などの数値を入力する方法と、領域ウィンドウ内で直接領域を指定する方法があります。

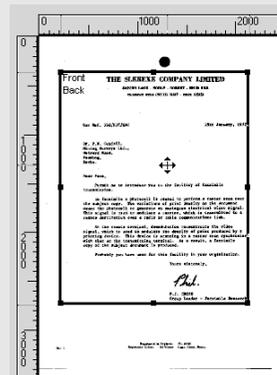


「Canon DR-5020/DR-5080C 詳細設定」ダイアログ (P.46) で[用紙サイズ検知]を選択している場合は、ここでの[用紙サイズ]およびスキャン領域の設定は無効になります。



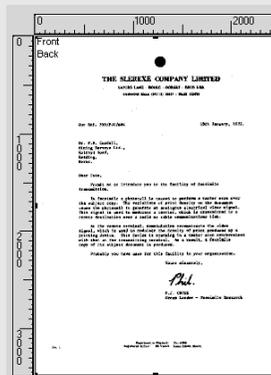
項目	内容
用紙サイズ	読み取る原稿サイズを以下の中から選択します。 Letter - 8.5 × 11 インチ LetterR - 11 × 8.5 インチ Legal - 8.5 × 14 インチ Double Letter - 11 × 17 インチ A3 - 297 × 420mm A4 - 210 × 297mm A4R - 297 × 210mm A5 - 148 × 210mm A5R - 210 × 148mm A6 - 105 × 148mm A6R - 148 × 105mm B4(ISO) - 250 × 353mm B4(JIS) - 257 × 364mm B5(ISO) - 176 × 250mm B5R(ISO) - 250 × 176mm B5(JIS) - 182 × 257mm

	<p>B5R(JIS) - 257 × 182mm                  B6(ISO) - 125 × 176mm                  B6R(ISO) - 176 × 125mm                  B6(JIS) - 128 × 182mm                  B6R(JIS) - 182 × 128mm</p> <p>スキャナの最大値 (295 × 432mm のサイズで読み取ります。)                  指定したサイズよりも大きい原稿を読みとると、周囲が欠落します。また、小さい原稿を読みとると周囲が黒く表示されます。                  なお、「Canon DR-5020/DR-5080C 詳細設定」ダイアログで[用紙サイズ検知](P.48) を選択している場合は、この設定は無視されます。</p>
座標位置	<p>X : スキャン領域の左上の X 座標を入力します。                  Y : スキャン領域の左上の Y 座標を入力します。                  幅 : スキャン領域の幅を入力します。                  高さ : スキャン領域の高さを入力します。</p> <p>座標位置は、表面と裏面の設定が必ず同じ設定になります。</p>
簡易調整	<p>スキャン領域の座標位置を、自動的にきりのよい値に調整します。                  単位がインチの場合は 1/8 インチの倍数、センチの場合は 0.1cm の倍数、ピクセルの場合は 32 ピクセルの倍数になります。</p>
単位	<p>スキャン領域の表示で使用する単位を選択します。                  インチ、センチ、ピクセルから選択できます。</p>
(領域ウィンドウ)	<p>領域ウィンドウには用紙サイズに対するスキャン領域が表示され、用紙サイズの設定により領域ウィンドウのサイズが変わります。                  原稿をプレビュースキャン(P.45)し、領域ウィンドウに表示されたプレビュー画像に合わせて領域の大きさを調整します。                  スキャン領域は領域の枠の部分ある■をドラッグすることにより領域の大きさを調整できます。また、領域を移動させるときは、領域全体をドラッグして領域を移動します。                  領域の指定は表面、裏面の両方に適用されます。</p>



## 〈ボタン〉

項目	内容
詳細	「Canon DR-5020/DR-5080C 詳細設定」ダイアログ (P.46) を開き、さらに詳細な設定を行います。フィルタの設定やスキャン速度、用紙サイズ検知、コントロールシートの検知などができます。
インプリンタ / アドオン	「インプリンタ/アドオン」ダイアログ (P.28) を開きます。スキャンした原稿に印字するインプリンタ機能(オプションのインプリンタユニットが装着されている場合)や、スキャン結果の画像に文字を付加するアドオン機能の設定を行います。
バーコード	「バーコード」ダイアログ (P.34) を開きます。オプションのバーコードリーダーが装着されている場合に、バーコードの読み取りに関する設定を行います。
ガンマ	「ガンマのダウンロード」ダイアログ (P.32) を開きます。色や階調の表現をするガンマデータを読み込みます。
ファンクションキー	「ファンクションキー」ダイアログ (P.26) を開きます。スキャナ本体のファンクションキーに、特定の機能を割り当てる設定を行います。
初期値	設定を出荷時の状態に戻します。
OK	設定した内容でスキャンを開始します。
キャンセル	設定した内容を破棄してスキャンを中止します。
プレビュー スキャン	原稿を1枚スキャンし、領域ウィンドウにプレビュー画像を表示します。



## 詳細設定

スキャン条件の詳細を設定します。

詳細設定は「Canon DR-5020/DR-5080C 詳細設定」ダイアログで行います。



項目	内容
フィーディングオプション	<p>原稿の給紙方法を選択します。</p> <p><b>標準 (Ft)</b> : 原稿をセットしてソフトウェアからスキャン開始の指示をすると、給紙(スキャン)を開始します。</p> <p><b>セミオート</b> : ソフトウェアからスキャン開始の指示をして原稿をセットした後、スキャナ本体の操作パネルのスタートキーを押すと給紙(スキャン)を開始します。</p> <p><b>オート</b> : ソフトウェアからスキャン開始の指示をして原稿をセットすると、自動的に給紙(スキャン)を開始します。</p> <p><b>マニュアル</b> : ソフトウェアからスキャン開始の指示をした後、手差しで1枚ずつ原稿をセットします。特に厚い、または薄い原稿などの場合に使用します。</p> <p>なお、ここで設定を変更すると、[OK]をクリックしたかどうかにかかわらず、スキャナ本体の操作パネルのフィーディングオプションの表示が切り替わります。</p>
マージン読み取り	<p>スキャン領域の上下左右の範囲を調整します。</p> <p>[有効]をクリックし、<b>◀ ▶</b>で調整します。</p> <p>- 10 (10mm 狭く読み取る) ~ +10 (10mm 余分に読み取る) の範囲で指定します。</p> <p>たとえば、原稿の端の部分が欠けないようにスキャン領域を広めにとりたい場合は + 方向に調整し、スキャン結果に黒い枠がつかないようにスキャン領域を狭くとりたい場合は - 方向に調整します。</p>

手動紙厚調整	<p>自動紙厚調整を使用しない場合に、紙厚を手動で設定します。有効をクリックし、◀ ▶で調整します。</p> <p>数値は1 (もっとも薄い紙) ~ 13 (もっとも厚い紙) の範囲で指定します。自動紙厚調整が使えない原稿、表面処理がされている原稿をスキャンする場合や、自動紙厚調整モードで重送が頻繁に起こる場合に、ここで紙厚を調整します。</p>
重送検知	<p>原稿を連続してスキャンするときに原稿が複数枚が重なって送られたり、一部が重複して送られたこと (重送) を検知するための方式を選択します。</p> <p><b>[厚みで検知]</b> 紙の厚さで重送を検知します。1枚目の原稿(*)よりも厚い原稿が送られると、スキャナが重送と判断してエラーを表示します。</p> <p><b>[長さで検知]</b> 紙の長さで重送を検知します。1枚目の原稿(*)よりも長い原稿が送られると、スキャナが重送と判断してエラーを表示します。</p> <p>(*)重送検知は、1枚目の原稿の厚さや長さを基準として行います。1枚目の原稿が送られると、スキャナが厚さと長さを記憶します。</p>
高速スキャン	<p>解像度を200dpiまたは300dpiに設定している場合に選択できます。200dpiの場合は、200 × 100dpi(横 × 縦)でスキャンした画像を200 × 200dpi(横 × 縦)で出力します。</p> <p>300dpiの場合は、300 × 150dpi(横 × 縦)でスキャンした画像を300 × 300dpi(横 × 縦)で出力します。</p> <p>どちらの場合も素早くスキャンすることができますが、画質は若干劣化します。</p>
パネル操作有効	スキャナ本体の操作パネルでの設定の変更を有効にします。
エンドーサ	オプションのエンドーサの使用を有効にします。
コントロールシート	<p>スキャナコントロールシートを使う場合の読み取りモードを選択します。</p> <p>[なし] スキャナコントロールシートを検知しません。</p> <p>[検知して記録する / スキャン継続] スキャナコントロールシートの内容も画像として記録し、スキャンを継続します。</p> <p>[検知して記録しない / スキャン継続] スキャナコントロールシートの内容は画像として記録せず、スキャンを継続します。</p> <p>[検知して記録する / スキャン停止] スキャナコントロールシートの内容も画像として記録し、スキャンを停止します。</p> <p>[検知して記録しない / スキャン停止] スキャナコントロールシートの内容は画像として記録せず、スキャンを停止します。</p>
ベリファイカウント	スキャンする前にカウントした枚数と実際にスキャンした枚数とを照合し、違いがあればエラーを表示します。

自動ファイル区切り	連続スキャンが1回終了するごとに、区切り信号を発生する設定です。対応したアプリケーションでファイル区切りなどを行うことができます。
用紙サイズ検知	スキャン時に1枚ずつ原稿サイズを検知し、そのサイズで読み取ります。これを選択すると、「Canon DR-5020/5080C Scanner」ダイアログの「用紙サイズ」の設定は無効になります。

### 〈裏面の明るさの設定〉

項目	内容
マニュアル	裏面をスキャンする明るさを手動で設定します。設定範囲は、1～255の範囲で設定できます。◀ ▶ をクリックして調整します。
オート	[イメージ選択]の設定を[白黒]、[ディザ]の設定を[なし]にしたときのみ、明るさの設定が自動設定になります。 [イメージ選択]の設定がその他の設定のときに、明るさを[オート]に設定した場合、明るさの設定はデフォルトの設定になります。

### 〈イメージフィルタの設定〉

画像処理フィルタの設定を行います。

項目	内容
黒孤立点除去	白地の中で孤立した黒い点(1ドット)を自動的に消去します。
白孤立点除去	黒地の中で孤立した白い点(1ドット)を自動的に消去します。
ノッチ除去	輪郭から飛び出している部分(ノッチ)を自動的に消去します。
細線補完	細線やうすい原稿をスキャンしたときに発生するかすれやとぎれを軽減します。
カラードロップアウト	原稿の中の特定の色を読み取らない(ドロップアウトする)ように設定します。この機能は DR-5080C の場合のみ有効です。  [なし] ドロップアウトを行いません。 [赤] 原稿中の赤色の部分を読み取らないようにします。 [緑] 原稿中の緑色の部分を読み取らないようにします。 [青] 原稿中の青色の部分を読み取らないようにします。
禁止区間始	ドロップアウトを無効にしたい部分がある場合、無効にする範囲の開始位置を指定します。 用紙の先端から mm 単位で指定します。
禁止区間終	ドロップアウトを無効にする範囲の終了位置を指定します。 用紙の先端から mm 単位で指定します。
AE	自動露出機能(画像を選択した範囲の明暗によって明度とコントラストの設定をすること)のレベルを設定します。◀ ▶ をクリックして1～13の範囲で選択します。出荷時の値は7です。

**エッジ強調**

文字の輪郭を強調したり、写真などで画像の粗さを緩和したりするレベルを設定します。◀ ▶をクリックして1～5の範囲で選択します。出荷時の設定は3です。



メモ

- ・[黒孤立点除去]、[白孤立点除去]、[ノッチ除去]、[細線補完]は、[イメージ選択]の設定が[白黒]で[ディザ]の設定が[誤差拡散]の場合に有効です。
- ・[カラードロップアウト]は、[イメージ選択]の設定がカラー以外の場合に有効です。
- ・[AE]は、[イメージ選択]の設定が[白黒]の場合に有効です。
- ・[エッジ強調]は、全てのモードで有効です。

## 〈ボタン〉

項目	内容
OK	設定した内容を反映してダイアログを閉じます。
キャンセル	設定した内容を反映せずにダイアログを閉じます。
初期値	設定を出荷時の状態に戻します。

## 索引

## -英数字-

1 ページスキャン .....	42
AE(自動露出機能) .....	25,48
「Canon DR-5020/DR-5080C Scanner」 ダイアログ .....	40,41
「Canon DR-5020/DR-5080C 詳細設定」 ダイアログ .....	46
Codabar .....	36
Code128 .....	36
Code39 .....	35
EAN .....	35
ISIS ドライバの選択 .....	16
ITF .....	36
JAN .....	35
TWAIN ドライバの起動 .....	39
TWAIN ドライバの選択 .....	38
UPC .....	36

## -あ行-

明るさ .....	20,42
アドオン .....	28
アドオンタイプ .....	30
イメージ選択 .....	18,41
印字位置 .....	30
印字タイミング .....	30
「インプリンタ/アドオン」ダイアログ .....	28
インプリンタ/アドオンの設定 .....	28
インプリンタ有効 .....	27
ウィンドウ .....	21
裏面の明るさ .....	48
エッジ強調 .....	25,49
エンドーサ .....	24,47
オート .....	23,46

## -か行-

解像度 .....	18,42
回転 .....	30
カウンタ .....	29,31
紙厚固定モード .....	27
カラードロップアウト .....	25,48

簡易調整 .....	22,44
ガンマカーブ設定 .....	32
ガンマカーブデータ .....	33
「ガンマのダウンロード」ダイアログ .....	32
基本設定 .....	18,41
給紙方法 .....	23,46
禁止区間(ドロップアウト) .....	25,48
黒孤立点除去 .....	25,48
検知する面(バーコード) .....	35
検知領域 (バーコード) .....	35
高速スキャン .....	24,47
コントラスト .....	20,42
コントロールシート .....	24,47

## -さ行-

細線補完 .....	25,48
座標位置 .....	22,44
システム環境 .....	6
自動ファイル区切り .....	25,48
重送検知 .....	24,27,47
手動紙厚調整 .....	24,27,47
詳細設定 .....	23,46
「詳細設定」ダイアログ .....	23
白孤立点除去 .....	25,48
「スキャナの設定」ダイアログ .....	18
スキャン条件の設定 .....	17,40
スキャン領域 .....	43
「スキャン領域」ダイアログ .....	21
スキャン領域の設定 .....	21
設定を復元する .....	27
設定適用領域 .....	20
セットアップ CD-ROM .....	10
セミオート .....	23,46

## -た行-

単位 .....	21,44
小さいフォント .....	31
ディザ .....	18,42
ドライバのインストール .....	11

## ーな行ー

ノッチ除去 ..... 25,48

## ーは行ー

バーコード検知有効 ..... 35  
「バーコード」ダイアログ ..... 34  
バーコード読み取り設定 ..... 34  
バックアップディスク ..... 10  
パネル操作有効 ..... 24,47  
必要な準備(インストール) ..... 10  
「ファンクションキー」ダイアログ ..... 26  
ファンクションキーの設定 ..... 26  
フィーディングオプション ..... 23,46  
プレビュースキャン ..... 45  
ペリファイカウント ..... 24,47  
本書の読みかた ..... 8

## ーま行ー

マージン ..... 23,46  
マニュアル ..... 23,46  
右から左に印字 ..... 30  
文字列(インプリンタ/アドオン) ..... 28

## ーや行ー

用紙サイズ ..... 19,21,43  
用紙サイズ検知 ..... 25,48

## ーら行ー

リセット値 ..... 31  
領域ウィンドウ ..... 22,44  
両面 ..... 42

